素早く、楽に、正確に
作業工具・電動工具

製造業や建設業などの〝モノづくり〟では部材の加工や組み立て・施工の過程で必ず道具が用いられる。切る、削る、曲げる、締める、回すなど、多様な作業工程において、作業工具・電動工具が人の力の限界を補い、より素早く、楽に、正確な作業を可能にする。同じ種類の工具でも、電気工事などで用いる絶縁工具、火花の発生防止対策が施されている防爆工具など、作業環境に対応した仕様が用意されている。また、汎用性の高い工具だけでなく、特定作業のための専用工具も数多く用いられる。電動工具は電気の力を用いて人力の及ばない大きな力、スピードを得ている。工程管理システムなどと連携する製品も登場している。コードレスの電動工具は近年、電池やモーターの性能が向上し、連続使用時間が長くなり、軽量・高出力化が進む。さまざまな工具類がプロとして仕事に臨む作業者に不可欠なパートナーとして、モノづくりの現場を支えている。

有力企業の製品・技術〈順不同〉

関西クラウン工業社

関西クラウン工業社は特注品の工具製作や少量の部品製作を得意とするメーカー。「こんな形の工具があれば…」というユーザーの思いを形にしている。「こりゃナット君」は狭い作業部位のナット締めに使う電動ドライバー補助工具。ナットの上部や周りに障害物がある場合や奥まった場所など、電動ドライバーが入らない作業部位でも横位置から使える。水道・ガス管のフランジ取り付けなどに最適。

「軽天のやっさん」は長尺ボルトへのナット付けを素早く大量に行える3分1種六角ナット専用のナットセッター機。ボルトの差し込み調整は300ミリメートルまで可能だ。

水戸工機

水戸工機の「インパクトレンチ用 タップ用ソケット」はハンドタップ（別売）を装着し、ねじさらいの作業用工具である。四角駆動部とシャンク部を六角止めねじで固定するため、作業中のガタつきが少ない。作業効率の向上につながり、顧客から高い評価を得ている。差し込み角が9・5ミリメートルで運用タップ7アイテム、12・7ミリメートルで18アイテムをそろえ、豊富なサイズに対応する。特殊なサイズでも製作が可能。

同社はタップ用ソケット以外にも特殊工具製作に応じている。作業現場でのあらゆるニーズに応えるべく、顧客の声を大切にしている。

ロブテックス

ロブテックスは1928年、全型打鍛造による汎用性の高いモンキレンチの国産化に初めて成功。当時は高価であった工具を、高品質で手ごろな価格で提供し、多くの職人の手に普及した。完全な品質管理と長年培われた鍛造ノウハウは、その製造から90年以上たった現在まで受け継がれている。

同社は2023年の創立100周年（創業135周年）に向け、経営ビジョン「モノづくりのプロに応え モノづくりの愉しさを育む」を掲げた。その歴史におごることなく、ユーザーの役に立つ工具を提供するため、当初の思いを継続しながら進化を続けている。

ハイオス

ハイオスはデジタル変革（DX）を推進するデジタルドライバー「熟練工」シリーズなどの製品開発で、ユーザーに「ねじ締めの自動化でDX」を提案している。

電動ドライバー「熟練工 BLG-BC2」はモーターの回転パルス数をカウントし、異種ねじの混入やねじ浮き、下穴の摩損、ねじのかじりなどのねじ締め不良を高精度に検出。また、パソコンなど外部機器から遠隔で設定を変更できる。クラウド上にねじ締めデータを集めての一元管理や複数拠点の生産状況をリアルタイムで管理するねじ締めの製造履歴管理（トレーサビリティー）を実現した。

育良精機

育良精機のライトボーラーシリーズは小型・軽量・ハイパワーでユーザーから高い評価を得ている。特に36ボルトバッテリーコードレスタイプのISK-LB30Li-iは、バッテリーの電力を使わない永久磁石を採用し、100ボルトに負けないスムーズな穴開けが好評だ。100ボルトシリーズでは質量8・9キログラムの超コンパクトタイプISK-LB30LX、直径50ミリメートルまで可能な万能タイプISK-LB50SX、直径100ミリメートルまで可能な大口径重切削タイプのISK-LB100Sなどをラインアップ。小径から大口径まで現場でのあらゆる穴開け作業に適応した商品を取りそろえている。

インタビュー

品質の〝ジャパンブランド〟発信

全国作業工具工業組合理事長（ロブテックス社長）　地引 俊爲 氏

―2021年はいかがでしたか。

「20年の反動もあって21年はどこも非常に好調だった。20年はホームセンターの業界（向けの流通経路）が非常に活況を呈したが、21年は少し落ち着き、今度は一般の製造業（向けの流通経路）が忙しい。われわれ生産財のメーカーもその波に乗った」

―22年の見通しは。

「原材料や原油価格の高騰で、われわれの業界は価格改定に入っている。改定前の駆け込み需要の反動が一部で出るかもしれない。また半導体不足に伴う自動車の減産などの影響も一部で出てきているが、作業工具は補完的に使う工具なので、大きく影響しているということではない」

―作業工具のニーズは変化していますか。

「（コロナ禍の）ここ2年に限ったことではないが、業界全体としては輸入品が増える傾向にある。中国、台湾はもちろん、最近は東南アジアからの輸入が増えている。ベトナムは10年前の約4・5倍（の輸入金額）、タイは約2・3倍となった。（日本のメーカーによる）海外生産も増えている」

「商品のプロモーションの仕方、動画、SNSを使った広告宣伝に力を入れるところも増えた。生産財でも見た目、目を引く商品がより重視されるようになり、各社ともデザインや色、パッケージを含めてブランディングを強化している」

―組合の活動は。

「ホームページの改訂など業界全体のプロモーションに力を入れたい。輸入品の増加に対応し、品質が高く、安全性を考えて設計している『ジャパンブランド』の浸透に向けた情報発信もしていきたい。この2年間、ホームページに掲載している『正しい作業工具の使い方』を研修のテキストに使いたいという問い合わせが増えた。内容をしばらく改訂していなかったので、今年は改訂に着手する必要がある」